

銀の道広域案内板 除幕式

1. 日時 令和3年7月4日
 受付開始 午前10時30分
 開式 午前11時
2. 場所 広島県三次市布野町下布野661-1
 (道の駅：ゆめランド布野)
3. 主催 銀の道広域連携実行委員会

4. 銀の道広域案内板イメージ図

銀の道

銀の道を歩く旅
赤名～布野～三次

銀の道（江戸時代、石見大森銀山から尾道まで灰吹き銀を運んだ道）
 石見大森銀山は、中世から近世にかけて多くの灰吹き銀を産出し、戦国時代の毛利氏、江戸時代の徳川幕府の財政を助けた。中世では、銀山から日本海に向け銀を運び、その銀は、温泉津沖泊り港から、海外や日本国内に輸出された。このことから、銀山及び日本海に向けての輸出ルートは、世界遺産になった。政権が変わり、徳川幕府が支配するに至り、ここは、幕府の産地（天領）となる。幕府は、安定的に銀を大坂の銀座に運び貨幣とするため、より安全なルートとして、大森から、中国山地赤名峠を越えて、尾道に運ぶ道を整備、尾道から大坂に向けて運ぶルートを作り出した。大森銀山を出発の後、九日市、三次、甲山、に宿泊、尾道まで距離約130kmを3泊4日で運びました。

飯南町赤名～布野～三次の銀の道
 赤名の宿は出雲と備後の接点として栄え、宿場町の景観を残している。赤名からならかな道の後、赤名峠にさしかかる。峠には国境の碑が今も残る。赤名峠を下ると三次市布野町横谷に入る。銀の道はここから再び山越えの道を行き、仏ヶ峠（ほとけがたお）を越える。この峠を下ると布野の宿に着く。布野は、現在の国道54号、明治の道、江戸時代の道の三本の道が通っている。布野の宿を過ぎると、山家を越えて、西城川にでる。西城川を下ると三次の宿につく。山家の一里塚は今でも残る。布野の道の駅から、赤名までバス路線もあり、赤名（赤名道の駅）から布野宿経由、布野の道の駅まで歩いてみるのも楽しい。



銀の道広域連携実行委員会



銀の道沿線の史跡(拠点スポットのご紹介)

①赤名の道標
銀の道は赤名で出雲大社への参詣街道として整備された出雲街道と合流する。街道脇には、1856年に建てられた道標が残っている。

②赤名峠
出雲田と備後田との国境で昔から難所として知られていた。当時の街道は赤名側の国道54号を斜めに横切る急坂であった。

③ついでん祠
これと同じ伝承を持つ「梅雨左衛門」という岩が、大森にもある。当時の幹線道沿いにあることから、大森から伝わったものかもしれない。

④仏ヶ峠
川沿いの木立の中を登っていくと開けた峠に出る。古い石仏と牛馬観音が建っている。ここから先の布野の道は全て下り坂である。

⑤布野の宿
瀬戸内と山陰を結ぶ広島藩最北の宿駅で、陸路交通の要衝として早くから町が形成されていた。当時の道筋が市街地に残っている。

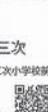
⑥山家一里塚
広島藩が、1633年から藩内の街道を整備した。この時設置された一里塚があり、東側は塚の遺構が比較的良好に保存されている。

銀の道沿線 交通のご案内

バスでの移動

赤名 ← 17km → 布野 ← 13km → 三次

赤名バス停 ↔ 25分 ↔ ゆめランド布野 ↔ 15分 ↔ 三次小学校前



銀山街道沿線市町等連絡協議会
 銀の道広域連携実行委員会・銀の道を歩く部会
 協力：国土交通省三次河川国道事務所・一般社団法人中国建設弘済会